

特別企画 輝け！ 女性消防団員

吉沢京子の消防団訪問記

～横浜市西消防団～

現在、女性消防団員数は、全消防団員数に占める割合は少ないものの、年々増加しています。横浜市西消防団の女性団員は、近年、定員を超える応募があるほど人気があるといえます。そこで今回は、消防団に関心の深い女優の吉沢京子さんにその魅力取材していただきました。

皆様、はじめまして。吉沢京子と申します。

このたびは、消防基金からの御依頼で横浜市の西消防団を訪問させていただきました。

こちらの消防団は女性に大変人気があり、新規入団待ちのかたまでいらっしゃるとういしました。その魅力などをお尋ねしたいと思います。

では、横浜市西消防団の小林美晴さん（副分団長、団本部部長、女性消防団員責任者）、氏家葉子さん（部長、訓練指導者）、濱下康子さん（団員、広報担当）、横浜市西消防署の堀下清美さん（消防士長）の皆さんからお話を伺いましょう。



取材時の様子

吉沢京子の消防団訪問記

西消防団の概要

吉沢 本日はよろしくお願いします。消防団のかたへの取材は初めての経験ですので、いろいろと教えてください。まずは西消防団の概要などを御紹介ください。



取材中の吉沢京子さん

小林副分団長 西消防団は、横浜市内の20ある消防団の1つで、横浜市西区が管轄です。管轄内には、横浜駅やみなとみらい地区などの商業地域と、昔ながらの木造住宅密集地域があり、1本部、3分団、10班で構成され、都市型消防団を標榜し、事務分掌など組織の役割を明確化して、「教育部」、「庶務部」、「管理部」の3部門と「訓練担当」、「広報担当」などの8担当があります。団員は全230名、その約3割の82名が女性です。

吉沢 けっこう女性が多いですね。

氏家部長 横浜市の平均が約1割（団員に占める女性の割合）なので、西消防団は多いほうだと思います。

吉沢 女性団員の主な活動内容は？

小林副分団長 男女混合で編成されていますので、活動内容は男女同一です。訓練も男性と同じです。応急手当指導員にもなっています。

氏家部長 応急手当指導員とは、簡単にいうと、人が倒れたときの人工呼吸の方法やAEDの使い方などを一般のかたに指導することができる資格ですが、これを持っている人が多いですね。（注：西消防団では、約130人の消防団員が保有）火災などの緊急出動も行います。女性の機関員もいて、災害時に消防団車両の運転もできます。それらのための訓練は男女同一で、平等ですね。都市型の消防団なので、鉄筋コンクリートに閉じ込められた人を救出するための機材取扱訓練（①参照）も行います。

吉沢 この写真（②参照）は、プールでの訓練の様子ですか？



①救助隊より、エンジンカッターの指導を受けています。



②救命ボートによる水難救助訓練



③二輪隊による情報収集訓練

濱下団員 管轄内に横浜港と河川があるので、水難救助の訓練も行っています。この他に水深6mのプールで着衣泳も行っていますよ。また、ビルが多いので、道路がふさがってしまったときの情報収集のために、トライアルバイク（個人所有のバイク）に乗ることができる女性の担当者（③参照）もいます。

吉沢 多岐にわたっているんですね。

濱下団員 地域柄、西消防団には電車通勤のサラリーマンの男性が多く、日中に地域にいる割合が少ないので、男性だけで活動できるという状況ではありません。女性も男性同様の活動をしていかないとはいけません。そういうこともあって、諸先輩がたに女性消防団員の活動を盛んにしていただいた経緯があります。

吉沢 男女同様の活動をされていますが、女性ならではの部分も大事にされていると思いますか？

氏家部長 女性らしい心配りをすごく大事にしています。被害に遭うかたは、当然男性だけではないので、女性・子供・お年寄りへの対応では、特に女性に期待されているところがあると思いま

す。また、家族との関係もあるので、女性担当を設けるなど、入団後のケアにも配慮しています。

消防団入団のきっかけ

吉沢 男性と同じ訓練などをやるのは大変ですよ。そもそもなぜ消防団に入ろうと思ったのですか？

小林副分団長 私の場合、兄が先に消防団に入っていました。いろんな行事を手伝うようになってから、いずれ女性を募集したら入ろうかなと思っていました。（注：横浜市では、平成9年10月から女性消防団員の採用が開始）

吉沢 正義感や義務感からでしょうか。

小林副分団長 ちょっとチャレンジしようかなという気持ちですね。無理ならやめよう。そんな感じで入って、もう16年目です。

氏家部長 今でこそ女性消防団員はいろいろな活動をしていて、それを見てカッコいいなと入ってくれるかたもいますが、私が入った当時は全然活動が目立っていませんでした。私が入ったのは、ご近所の小林副分団長に誘われたからです。正義感というほどのものはなかったです。

小林副分団長 断りづらかったと思います（笑）。でも、今はほんとうに活躍してくれています。

氏家部長 誘われて入っただけだったので、徐々に活動が盛んになってきて、それに自分が向いているということが分かってきました。消防団は、勉強させていただける場所がたくさんあります。おかげで、目覚めたというか。

吉沢京子の消防団訪問記

何か私たち女性でもできることがあるのではと。そういうのがあってのめりこんでいきました。地域のためになにかできればという思いで、今は下の世代を育てています。

濱下団員 私は6年前に引っ越してきて、1年くらい住んでから、ご近所のかた、今の分団長なんです、「消防団やってみない?」と誘われました。消防団って聞いたことがあるけどよくわからないというのが正直な印象でしたが、時間もあるし、お役に立てるのであればという気持ちで入りました。

吉沢 消防団の中に入ってみてどうでした?

濱下団員 ほんとうに入って良かったなあと思います。特に3.11の大震災のときや近所で火災が発生したときなど、自分が組織だって動くことができたときに感じました。

女性消防団員として活動すること

吉沢 最初に男性と同じような活動を始めたときは、なんというか偏見のようなものはありましたか?

小林副分団長 そういうものはなかったです。どんどんやれと。団長をはじめ皆さんが協力的でした。最初、資機材を運んだときは、ホースが重たくて泣きましたね。ホースが巻けなかったですから。

吉沢 放水も大変ですよ。水圧がすごいと聞きました。

小林副分団長 そうですね、大変でした。重い

物はフライパンか鍋くらいしか持ったことがなかったの(笑)ホースを持った次の日は、体のあちらこちらが痛くて。でも、一生懸命、分団長ほか皆さんに手取り足取り教えていただきました。感謝しています。



元気に放水訓練中の小林副分団長

吉沢 消防団も、皆さんの活躍のおかげで知られてきているんでしょうね。

小林副分団長 徐々にですが、認識されるようになってきました。

濱下団員 3.11以降は防災に興味を持った若い人が入ってくるようになりました。

吉沢 年齢制限はあるのでしょうか。

氏家部長 入団は18歳から可能で、定年は70歳です。

吉沢 私でも入ることができるんですね。

濱下団員 ぜひ横浜市、特に西区に住所かお勤め先を移していただいて(笑)。(注:横浜市では、在住・在勤の人が消防団に入団できる。)

吉沢 私は力がないからなあ。腕立て伏せも1回もできません(笑)。

小林副分団長 大丈夫です。私たちも最初はでき

なかったので (笑)。

濱下団員 危険な作業内容もあるので、無理だという人に無理をさせることはありません。それぞれの体力や能力、状況に応じた割り振りをしていただいています。

氏家部長 災害に遭ったとき、私は特に共助が大事だと思います。災害がいざ起きたとき、私たち女性消防団員がその地区の先頭に立って指示をしてあげれば、(地域での防災対応が)全然違うと思います。周りの人に指示をしながら助けてもらうことは、女性が向いていると思います。体力などの面から、男性の消防団員が実際に自分で動くことができるのに対し、もし女性団員が自分ではそれができないとしても、人を集めて指導をすることができると思います。これは、女性ならではの強みだと思います。

濱下団員 訓練のときにもよく言われています。だからこそ知識と技術を頭にしっかりと入れる必要があります。女性だからできないんだよではなくて、女性だから教えることができると。

吉沢 体力がない人はそういう分野でということですね。なんでもやらなければいけないということではないと。

氏家部長 ほとんどのかたが主婦なので、すべての訓練に参加できるとは限りません。必ず訓練に出なさいとは決して言いません。できる範囲でやっていただくようお願いしています。だからこそ、うちは女性消防団員の伸び率(女性団員数の増加率)がいいと思います。

吉沢 女性の場合、主婦や学生のかたが多いと思いますが、そういうかたがたは、災害出動はどうしているんですか。

氏家部長 昼間は家に居て出られる状況であれば、出動していただいています。夜中については、無理に出動とは、言いませんが。皆さん、家族がいますから。

吉沢 家族に大きな負担をかけてはいけませんよね。

濱下団員 分団ごとに違う部分もあります。私の分団では、家族に事前に承諾を得ていれば出動していいことになっています。私はイラストレーターをやっています、仕事柄、夜中に起きていることも多く、主人から了解を得られれば出動しています。家族の了解を得ていないのに、無理に出てくださいとは言われません。

吉沢 皆さんのお話を伺うほど、(西消防団には)入りやすそうな雰囲気を感じますね。

濱下団員 いきいきと活動している顔を見せていけば、どんなものなんだろうと興味を持ってくれます。うちは主人が自分もやりたいと入ってきて、私の後輩になりましたから(笑)消防団の魅力を多くの人に伝える協力、バックアップを署もしてくれます。団だけでなく、署としっかりと連携がとれているのが大きいです。いつも充実した活動内容を用意してくれる(消防団)本部の力も大きいですね。私などはまだまだ教えてもらってばかりですから。

小林副分団長 そんなことはない。あなたたちがいるから私たちがいます(笑)。

吉沢京子の消防団訪問記

氏家部長 ここで何を言っているんだか(笑)。

吉沢 この譲り合いの精神が大事なんですね(笑)。

濱下団員 いつもこんなノリなんです(笑)。

吉沢 こんなところが皆さんの輪を保って、消防団に入って良かったなあと感じられる部分なんですね。

小林副分団長 消防団だけのつきあいではないので。うちは、男女の垣根がなく、分団も3つに分かれています。線引きがないので、みんなまで和気あいあいとしています。



国民保護法による負傷者を男女協力し搬送している訓練

吉沢 でも、笑ってばかりもいられないことがあったと思います。今までやってきた中で、いちばん大変だったことってどんなことがありましたか。

小林副分団長 訓練が大変でしたね。今までやったことがなかったので。ホースを巻いたり、運んだり。最初は、言葉の意味がわかりませんでした。なかなかついていけなかったのが悲しかったです。ふだん怒られることがなかったので、頭ごなしに言われて何度泣いたことか(笑)。

吉沢 私も最初はそうでした。13歳で仕事に入ったのですが、いきなり撮影所に行かされて。何もわからないから、監督が怒るんです。だけど怒られている意味がわかりませんでした。何を言っているかさっぱりわからなくて。でもとりあえず返事はしないとイケないので、ハイ!ハイ!と答えて。そうやりながら、何十年もたってしまいました(笑)。

氏家部長 私がいちばん大変だったのは、操法の訓練です。これは5人で隊をつくって大会に出るための訓練なのですが、この大会は、時間内にホースを担いで走り、火点の火を消すという一連の動作についてタイムなどを競うものでして、私たちが女性で初めて参加しました。この訓練のときがいちばんつらかったですね。当時はもう40代でしたから。初めて編み上げ靴を履いて靴ずれしましたし、重たいホースを担いで、ヘルメットをかぶって、暑い中走って。何キロ痩せただろう。

小林副分団長 私は7キロ痩せました。すぐに戻りましたが(笑)。

氏家部長 とにかく厳しかった。どなられましたし。それでも、泣きながら訓練についていて、大会で披露したときの達成感がいまだに忘れられません。表彰までしていただきました。今はどんな訓練でも耐えられます。

吉沢 心身ともに鍛えられたわけですね。

小林副分団長 強制ダイエットみたいなものでしたね(笑)。でも、消防操法大会に出場参加できたことに感謝しています。

氏家部長 そうですね。今まででいちばんつらかった半面、いちばん感動的で忘れられない思い出になっています。

小林副分団長 それが基本になっていますね。

濱下団員 私は何がきついかといえば、現場で活動したとき、まだ足りない、まだ知らない、まだできないという気持ちが残るところです。自分自身・仲間・他人の命を預かるということがすごく重いです。一つの行動が人の命を左右してしまうことを考えたら、もうそれがきついですね。活動はやりがいがありますが、責任を常に考えなければいけない。



操法訓練中の様子①



操法訓練中の様子②

吉沢 対イノチ（命）ですものね。

濱下団員 自分に何かあったら家族に迷惑をかけますから。

小林副分団長 そのとおりです。

吉沢 捨て身ではできませんよね。

濱下団員 まだ経験はないのですが、今後もし何か災害に遭ったとき、いちばん自分がつらくなるのは、線引きをしなければいけないときだなと思います。

女性消防団員の確保について

吉沢 こちらは、地域の女性にかなり人気のある消防団だと伺いました。消防団の条例定数を100パーセント満たしていて、入団待ちのかたまでいて、全国から視察にくる消防団までいらっしゃるそうですね。人気の理由はどこにあると思いますか。今まで伺った印象では、皆さんのチームワークの良さが大きいのではないかと思います。いかかでしょうか。

濱下団員 地域によっては、女性がいないところもありますし、活動内容を広報活動などに制限しているところもあります。うちの場合は、男性と一緒に活動をやれるということが大きいのかもかもしれません。そこが人気というか興味を持ってもらえる理由の一つかなと思います。いろんな資機材を使うこともできるし、救助隊のかたに教を請うこともできるので。

吉沢 それだけ知識を深めなければいけないということもありますね。

濱下団員 それを求められているというプ

吉沢京子の消防団訪問記

レッシャーもあります。西区は人口密度が高いですし、横浜駅一つだけでも、1日に200万人もの乗降客がいます。何かあったら、常備の署員さんだけでは足りないところもあるかと思いますが、そのために、私たちに任せたという部分も感じられます。だからこそ、それに応えようという態勢を団本部が運営し、それに団全体がついていっています。そういうところが全国から注目を得ていると思います。

吉沢 地域によって条件が変わってくると思いますが、団員を増やすための、何かこうしたほうがいいのではないかということはありませんか。

小林副分団長 私はいろいろなところで声をかけています。お祭りでは、消防団のブースを出すなど、アピールをしています。また、どこに行くのもこのかっこう（制服姿）ですね。

吉沢 制服姿はかっこいいですね。形から興味を持ってもらってもいいんですよね。

小林副分団長 もちろんです。私は初めて各個（カッコ）訓練と聞いたとき、こういうかっこう（制服を着ること）をすることなのかなと思いました。各個人の訓練という意味であることが後でわかりました（笑）。最初はみんなそんなものですよ。

濱下団員 西区在勤のかたがたにも消防団に入ってもらっていますが、そういう外部のかたたちへのアピールには、ビジュアル面でははっきりと見せることが必要だと思います。西消防団では、消防団員自身が編集した広報誌の発行や、出初式などのいろいろなイベントで消防団

活動の写真を載せたパネルを掲示するなど、活動紹介を積極的に行っています。視覚的に訴えないと。言葉だけでは伝わりませんので。



広報活動中の濱下団員

吉沢 お仕事（イラストレーター）の特技を生かされているんですね。

小林副分団長 任せていれば安心です。

濱下団員 また、団と署がお互いに顔の見える関係で、理解と協力をし合うことが大事だと思います。署では、訓練などへのアドバイスはもちろん、事業所などへの説明にも行ってください。団の中での仲の良さも必要ですけど、署と団の仲の良さも大事ですね。

吉沢 最近では、どのようなかたが女性消防団員になりましたか。

氏家部長 最近の西消防団でのいちばんのトピックスといえば、巫女（みこ）さんが消防団に入ってくれました。本職のかたです。伊勢山皇大神宮という神社が西区内にあるのですが、その宮司さんから巫女さんまで全員に消防団に入ってもらいました。（注：平成24年9月に入団）月に2回、訓練に参加してもらっています。

先日は、実際に倒れたかたの対応もしていただきました。

堀下士長 参拝にみえたかたが倒れて心肺停止状態になったとき、こちら（伊勢山皇神宮）のかたがたは全員が消防団員として訓練を受けていましたので、実際に救急隊が到着するまでの救命のリレーをしていただきました。その倒れたかたは、無事に生還されました。

吉沢 よかったですね。

氏家部長 それから、私たちの分団の管轄にはみなとみらい地区があるのですが、その保育園の保育士さんたちにも消防団に入ってもらおう予定です。

堀下士長 今は、定数がいっぱいのため、待っていただいている状態です。

氏家部長 入団される皆さん、これを学びたいということが個々に違ってきます。保育士さんたちの場合は、園児を守りたいので、園児に何かあったときのために応急手当指導員の資格をとりたいという意欲を皆さんが持っています。

吉沢 東日本大震災では痛ましい事故がありましたよね。ちょっとした判断力などの違いなのでしょうが……。

濱下団員 明らかに、3.11以降、消防団に興味を持つ人が増えました。ちらしを配っているときに、「消防団に興味を持っているのですが」とよく声を掛けられるようになりました。防災に興味を持ってくれる人が増えてきた今このときに、自分たちから動かないとなかなか団員は増えないと思います。

吉沢 最後に何か一言いただけますか。

小林副分団長 4月に団本部に配属になりました。まだ何もわからないので、また一から勉強してがんばりたいと思っています。今までどおり、これからもそうですが、団本部のかたや消防署のかたにお世話になりながらがんばっていきます。

氏家部長 私は訓練指導者をやらせていただいていますので、まだまだ自分も学ばなければならないことがたくさんありますが、この肩書きをもらった以上、訓練の指導はもちろんです。若い人たちに消防団とはこういうものなんだよ、けっして難しいことではない、ということ伝えていきたいです。気持ちの持ちようなんです、消防団は。自分も何か地域のためにしたいという気持ち一つでできるんです、女性消防団員は！そのことを教えていきたいと思っています。



訓練指導中の氏家部長

吉沢 厳しいですか、教えるときは。

氏家部長 男性、女性、消防署員、関係なくとなります。必要なときですよ（笑）私が教え

吉沢京子の消防団訪問記

てきてもらったように、下を育てていきたいです。

濱下団員 地域交際の要になれるよう、自分に何ができるかを模索しながらできる限りやっていきたいと思っています。

堀下士長 消防団担当としては、これだけ皆さんがしっかりしているので、皆さんが動きやすいように努めていきます。

吉沢 皆さん、ほんとうに向上心があって頼もしいかたばかり。これからも地域の皆さんを守っていていただきたいと思います。ありがとうございました。

対談を終えて

西消防団では女性が増え続けているようですが、お話を伺って、その理由がわかった気がします。私もこちらに住んでいる主婦だったらやってみたいなあと思っちゃいました(笑)。そんな雰囲気がありますね。

災害など緊急の場面に遭遇したときに、何かできればいいなあと思いつつ、ほとんどの人が何をすればいいかわからないと思います。皆さんのようなかたがたがご近所にいらっしゃったらほんとうに心強いですね。

横浜市西消防団の女性団員の皆さん、大変貴重なお話をありがとうございました。皆さんのいっそうの御活躍をお祈りします。(吉沢京子)



左から、氏家さん、小林さん、吉沢京子さん、濱下さん、堀下さん



男性と同じ活動をするための装備を身に着けた女性団員の皆さんと吉沢京子さん

吉沢京子プロフィール

東京生まれ。1966年、「劇団ひまわり」に入り、少女モデルとして活躍。1967年、「燃えろ! 太陽」で映画デビュー後、CM出演などで注目され、1969年、TBSの人気番組『柔道一直線』にヒロインとして出演し、不動の人気を博す。1971年に出演した東宝映画「父ちゃんのポーが聞こえる」では文部大臣新人賞、エランドール新人賞を受賞。現在、歌にお芝居、講演と幅広く活躍中。また、東日本大震災でのボランティア経験を通じて防災にも関心を持つ。

今号は、「ダニエル・カールの聞きたい! 消防団」はお休みします。